

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和6年1月31日

事業所名 ちゃいるどPOP

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10		必要でない物は別室に移動、活動内容や移動導線なども考え隨時適切なスペースの確保に努めている	
	2	職員の配置数は適切である	10			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8	2	子こどもの成長と共に車椅子も大きくなつており、エレベーターに乗る時、ティルトやフットレストを動かしている	エレベーターが狭いため、エレベーター付近に極力、物を置かない様にし事業所の設備を整えるようにしていく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	10		課題ノートをし、上手くいかなかった事、気がついた事などを記入し、改善・対策を組み、周知している	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9		インスタやフェイスブックで公開している	ホームページを更新、自己評価を公開出来る様にする
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	4		外部評価は検討中
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10			研修の時間の確保が難しいが、多くの職員が参加出来る内容や日程を工夫し職員の質の向上に努める
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	10			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	10		月1回会議を開催	2年前より、プログラムチームを構築することで、提供できるプログラムが増えた
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10		会議を行い、プログラムの構成や目的を明確にしている	プログラムチームを構築することで、人の意見やアイディアを聞くことでマンネリ化を防ぐことが出来ている
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	10		平日は療育を中心としたプログラムを行い、土日はゲームなどを中心に考えている	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	9	1	集団活動を主とした事業であるが、その中でも個別の障がい特性により支援などを工夫している	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10		朝礼の際、その日の内容や分担・動きについて細かく伝え全員で周知している	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	4	次の日の朝に行っており、毎日、打ち合わせは出来ないが翌日の朝に行えている 支援の振り返りや気がついた点・改善点についてはケース会議や職員会議で話し合い書面で周知している	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10		課題ノートを活用し、上手くいかなかった事、気がついた事などを記入し、改善・対策を組み、周知している	

	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等ディサービス計画の見直しの必要性を判断している	10			
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	9	1	5感覚に刺激を与えるようなプログラムを組み合わせて取り組んでいる	
関係機関や保護者との連携	20 障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10			
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	10			
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	10		必要に応じて主治医面談を行っている	
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8	1	必要時、見学などの対応を行い情報の共有を図っている	
	24 学校を卒業し、放課後等ディサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7	2	必要に応じて対応している	
	25 児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	2	必要に応じて連携をはかっている	研修機会があれば受けしていくようする
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	8		どうしたら放課後児童クラブや児童館との交流の機会を作れるのか情報を収集している
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6	2		
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10			
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレン特レーニング等の支援を行っている	2	5		ペアレン特レーニングが行える有資格者がいてないため実施出来ないが、事業所で上手く行った支援などについては情報共有を行い自宅でも実施してもらえるよう支援を行っている
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10			
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10			
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	10		保護者会のグループを目的に合わせて決めている	2年前より実施している
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	10			
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10		会報紙やインスタを開設し情報を発信している	
	35 個人情報に十分注意している	10			
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10			
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	6	地域のイベントに参加し、事業所を知つてもう機会を積極的に設けている	まだ事業所を利用したことがなく、相談相手がいない未就学児のお母さんが多いと聞くので子育て相談会のようなものが提供できる場を設けてもいいのかもしれない

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	10			再度マニュアルの見直しを行い、年間研修として取り組んでいく
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	1		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	10			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	2	指示書に基づくことなく母親の指示	している児としていない児がいるため、書式を作成してもいいのかもしれない
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10		職員会議や周知ノートにて全体周知を行っている	